

への加入状況が、調査対象者の生活面の属性ごとにどのような傾向を有するか、という点に関心を払い、健康保険と年金保険のそれぞれの加入について、仮説を検討していく。そして健康保険と年金のセット加入の状況の把握にも努める。続く第3節では、労働条件面の属性に着目し、それぞれのケースの健康保険と年金保険、そして雇用保険の加入状況の傾向について、仮説を検討していく。第2節と同様に、セット加入の状況についても、労働条件面の属性に関心を持って把握に努めたい。最後に、以上の考察をまとめた上で、政策的な含意を示すこととする。

2. 生活面からみた社会保険の加入状況

2.1. 使用するデータと仮説

本節では、主に調査対象者の生活面に関わる属性を用いて考察を行うこととする。まず、個票データ全608世帯分を用い、世帯主の健康保険と年金への加入状況について集計を行った。その後、世帯主の属性を生活面に焦点を当ててケース分けし、それぞれの傾向を、全サンプル使用時の集計結果と比較した。

健康保険に関し、生活面の属性としてケース分けに用いたのは次の変数である。1) 単身世帯である、2) 同居する子供がいる、3) 永住資格を有する、4) 日本での滞在に関し永住する予定である、5) 日本における通算滞在年数、6) ブラジルで健康保険に加入していた、7) 日本の医療環境に満足している、8) 病気になった際、すぐに病院へ行く、9) 病気になった際、我慢する。

年金に関しても基本的と同様の変数を属性として用いたが、異なる点は、6) ブラジルで年金保険に加入していた、7) 自身の将来予測に対し満足している、としたことと、8) と9) の、病気になった際の行動を省いたことである。

1) 単身世帯であること、というのは、すなわち、出稼ぎ労働としての初期段階を意味するものであり、社会保険への加入に対する意識が希薄であるとの仮説を検討することを目指している。なお、該当するのは54世帯である。

2) 同居する子供がいる、ということは、出稼ぎから定着までの段階を説明

行いたい。

した移民連鎖モデル³の後期にあたる。定住化しつつあり、なおかつ子供がいる状況では、社会保険への加入の意欲が高まるのではないかと、という点が、検証すべき仮説である。なお、該当するのは 298 件である。

3) 永住資格を有する、ということは、既に 5 年ないし 10 年以上の滞在を経ているはずであり、日本に定着していると考えられる⁴。ここでは、永住資格を付与される外国人は社会保険に加入している、との仮説を検証したい。なお、該当するのは 95 件である。

4) 永住するつもりである、というのは、もはや日本滞在が、母国への帰国を前提としたものではないことを意味している。ゆえに、これに該当する外国人の社会保険への加入意欲は高いとする仮説の検証を行う。なお、該当するのは 63 件である。

5) 日本における通算滞在年数では、それが短い者と長い者の間で、社会保険への加入状況に差が見られるかを確認したい。仮説は、通算滞在年数が長い者ほど社会保険への加入が進んでいる、というものである。なお、滞在が 2 年未満の 76 件、5 年以上の 314 件、10 年以上の 174 件をそれぞれ対象とする。

6) ブラジルで健康保険もしくは年金保険に加入していた、ということは、既に来日前から社会保険の重要性を認識している可能性を示唆する。それゆえ、ブラジルで加入していた者は日本でも加入するのではないかと、という点が検証すべき仮説である。なお、ブラジルで健康保険に加入していたのは 55 件、年金保険に加入していたのは 98 件である。

7) 日本の医療環境に満足している、または自身の将来予測に対し満足しているということについては、それと社会保険の関係を把握したい。健康保険への加入は医療機関へのアクセスを容易にし、医療面での満足度を高めている、年金への加入は将来に対する不安を取り除く、という仮説を確かめたい。なお、

³ 移民連鎖モデルに関しては、井口（2001）第 4 章「移民・外国人労働者の社会的統合」を参照のこと。

⁴ ただし永住権の取得については、在留許可の申請の手間を省くことが主たる目的であり、必ずしも永住の意思と関係するものではないとの意見もあることに注意が必要である。

それぞれ、満足度を5段階で尋ねた設問の上位2段階に印を付けた者を、「満足している」者とした。医療環境に満足するのは143件、将来予測に満足するのは205件である。

8) 病気になった際の行動として、すぐに病院へ行くと答えた者については、健康保険に加入しているからこそ、病院へのアクセスが容易なのではないか、という仮説を立てることにする。172件が該当する。

9) 病気になった際の行動として、我慢すると答えた者については、健康保険に加入していないため、病院へのアクセスが困難なのではないか、という仮説を立てることにする。139件が該当する。

2.2. 健康保険（表1）

はじめに、全サンプルを用いた集計結果から示す。何らかの健康保険に加入しているのは183件で、有効回答482件に占める割合は38.0%となっている。加入する健康保険を回答している179件に占める割合が高いものから並べると、国民健康保険（35.2%）、会社の健康保険（29.1%）、VIVA VIDA⁵（9.5%）、旅行傷害保険（5.6%）となっており、分からない（15.6%）や、その他（9.5%）と答えた者も少なくない⁶。

次いで、仮説の検討を行う。

1) 単身世帯の健康保険加入率（30.4%）は、全サンプルの加入率よりも低くなっており、仮説は概ね正しいと思われる。加入者に関しては、国民健康保険より会社の健康保険に加入している者の方が多く、会社の健康保険に加入している比率が全サンプルの比率よりも高い点が特徴的である。ただし、サンプルが少ない点に留意が必要である。

2) 同居する子供のいる世帯の健康保険加入率（42.7%）は、全サンプルの加入率よりも高く、仮説は支持されるといえる。会社の健康保険より国民健康

⁵ ブラジル人を中心として運営されている健康保険である。

⁶ 無回答のデータを含めた全サンプルに占める割合は、国民健康保険（10.4%）、会社の健康保険（8.6%）、分からない（4.6%）、VIVA VIDA（2.8%）、その他（2.8%）、旅行傷害保険（1.6%）の順に続く。

保険に加入しているケースが、全サンプルを用いたケースと比べ、高いようである。

3) 永住資格を有する者が世帯主である世帯の健康保険加入率(50.0%)は、全サンプルの加入率より相当高く、仮説を支持できると思われる。しかしながら、この水準でも皆保険制度の理念からは程遠いといわざるをえない。健康保険に加入していない者に対し、加入させることなく永住資格を与えている政府の姿勢も問われるべきであろう。また、旅行傷害保険を利用する者も少なくない。

4) 将来、日本に永住するつもりだと回答した世帯の健康保険加入率(56.5%)は、全サンプルの加入率より相当高く、仮説を支持できると思われる。既に永住権を有する世帯よりも加入率が高いのは、永住権取得者よりも強い日本永住志向を持つことの証左といえるかもしれない。なお、永住資格を有する者にも当てはまることだが、自身が加入している健康保険の種類が分からない、と回答した者が極めて少ないことは興味深い結果である。

5) 日本での通算滞在年数と健康保険加入率の関係をみると、2年未満(30.3%)、5年以上(41.1%)、10年以上(46.3%)と滞在年数が延びるほど健康保険の加入率が高くなっており、仮説は正しいと判断できる。滞在2年未満のケースでは全サンプルの加入率を下回っており、滞在5年以上だと全サンプルの加入率を若干上回る。通算滞在年数が長くとも旅行傷害保険を利用している者が存在することは注目に値する。

6) ブラジルで健康保険に加入していた者の健康保険加入率(34.7%)は、全サンプルの加入率を下回っており、該当者は来日前から健康保険の重要性を理解しており加入する傾向にある、とする仮説は支持されないように見受けられる。なお、加入している保険の種類に関しては、サンプルが少ないため解釈に注意が必要である。

7) 日本の医療環境に満足している者の健康保険加入率(44.8%)は、全サンプルの加入率を上回っており、健康保険への加入は医療機関へのアクセスを容易にし、医療面での満足度を高めているとする仮説は支持されるといえるだ

ろう。国民健康保険よりも会社の健康保険に加入している者が多くなっている。

8) 病気の際、すぐに病院へ行くと回答した者の健康保険加入率（46.8%）は、全サンプルの加入率を上回っており、健康保険に加入しているからこそ病院へのアクセスが容易であるという仮説を支持できると考えられる。

9) 病気の際、我慢すると回答した者の健康保険加入率（38.9%）は、全サンプルの加入率とほぼ同じ水準であり、健康保険に加入していない者は病院へのアクセスが困難であるという仮説は、直接的には支持されないように思われる。しかしながら、すぐに病院へ行くと回答した者と比較すれば、健康保険への加入率の低さは明白であるといえ、間接的に、仮説は一定程度支持されると考えるべきであろう。

2.3. 年金（表2）

はじめに、全サンプルを用いた集計結果から示す。何らかの年金保険に加入している世帯数は101件で、有効回答459件に占める割合は22.0%となっており、健康保険の加入率より15ポイント以上低い。加入する年金保険を回答している98件に占める割合では、ブラジルの年金保険（31.6%）が最も高く、次いで国民年金（20.4%）と厚生年金（20.4%）が並ぶ。民間の年金保険（2.0%）に加入する者も僅かながら存在する。なお、分からない（32.7%）との回答が非常に多く、その他（3.1%）と答えた者もいた⁷。

次いで、仮説の検討を行う。

1) 単身世帯の年金加入率（23.8%）は、全サンプルの加入率よりも僅かに高い水準にあり、単身者は出稼ぎの典型であり社会保険への加入に消極的であるとの仮説は支持されなかった。また加入する年金保険が、分からないとの回答を除けば、国民年金とブラジルの年金保険のみであり、厚生年金加入者がいない点が特徴的である。ただし、サンプルが少ない点に留意が必要である。

⁷ 無回答のデータを含めた全サンプルに占める割合は、分からない（5.3%）、ブラジルの年金保険（5.1%）、国民年金（3.3%）、厚生年金（3.3%）、その他（0.5%）、民間の年金保険（0.3%）の順に続く。

2) 同居する子供のいる世帯の年金加入率（25.7%）は、全サンプルの加入率よりも若干高く、仮説は正しいと思われる。日本の公的年金に加入する者の割合が高く、特に厚生年金加入者が多い。厚生年金に加入する者は全サンプルでも20件のところ、18件を占めている。

3) 永住資格を有する者が世帯主である世帯の年金加入率（33.3%）は、全サンプルの加入率より相当高く、仮説を支持できると思われる。しかし、健康保険と同様、永住資格の付与を機会に社会保険への加入が促進されている、といえるほどの水準にはない。

4) 将来、日本に永住するつもりだと回答した世帯の年金加入率（44.3%）は、全サンプルの加入率より相当高く、仮説を支持できると思われる。健康保険と同様に、既に永住権を有する世帯よりも加入率が高いことから、永住権取得者よりも強い日本永住志向が示唆される。なお、永住資格を有する者にも当てはまることだが、加入する年金保険の種類は厚生年金が最も多い。

5) 日本での通算滞在年数と年金加入率の関係をみると、2年未満（17.2%）、5年以上（25.4%）、10年以上（30.7%）と滞在年数が延びるほど加入率が高くなっており、仮説は正しいと判断できる。滞在2年未満のケースでは全サンプルの加入率を下回っており、滞在5年以上だと全サンプルの加入率を若干上回る点も、健康保険の場合と同様である。

6) ブラジルで年金に加入していた者の年金加入率（34.4%）は、全サンプルの加入率を大幅に上回っており、該当者は来日前から年金保険の重要性を理解しており加入する傾向にある、とする仮説は一見支持されるようである。しかし、加入する年金の種類を見ると、ほとんどがブラジルの年金と回答しており、日本の公的年金に加入している者が少ない点は無視できない。すなわち、ブラジルで年金に加入していた者は引き続き、その年金に加入を続ける傾向があるといえるだろう。

7) 自らの将来予測に満足している者の年金加入率（23.5%）は、全サンプルの加入率を僅かながら上回っている。年金加入は将来設計の確かさを示し、将来の不安を取り除く役割を果たすとする仮説は、一定程度支持されるものと

思われる。

2.4. 健康保険と年金のセット加入（表 3）

ここでは、健康保険と年金のセット加入の状況を、主に生活面の属性に着目して把握する。なお、健康保険と年金のどちらかに対する記述が無いものは欠損データとしたため、サンプルが非常に小さくなっている点に留意が必要である。

全サンプルを用いた集計では、加入する社会保険に関し、国民健康保険と国民年金の組合せであるのが 12 件、会社の健康保険と厚生年金の組合せであるのが 13 件となっている。一方、国民健康保険には加入しているが年金には加入していないと明示する回答が 22 件、会社の健康保険には加入しているが年金には加入していないと明示する回答が 16 件あった。

国民健康保険または会社の健康保険にのみ加入していると回答する者の存在は、セット加入に対する理解不足から、実際には年金にも加入しているのに、それを認識していない可能性と、実際にセット加入の原則が守られず、年金には未加入となっている可能性の二通りが考えられる。前者の場合、実際には年金に加入しているのにそれを認識していないのであれば、母国に帰国する際、脱退一時金の請求手続きを取れない恐れがある。後者の場合、仮にセット加入の原則が徹底されていない地域があるとすれば、外国人労働者の間で不公平感が高まる恐れがあると同時に、制度そのものが難を抱えていることになる。両者とも、看過できない事態といえる。

生活面の属性によるケース分けの集計結果をみると、国民健康保険と国民年金、もしくは会社の健康保険と厚生年金という通常の組合せでの加入を果たしているのは、そのほとんどが子供のいる世帯であり、また、日本での通算滞在年数が 5 年以上であることが分かる。公的な健康保険にのみ加入し、年金に加入していないと回答する世帯に関しても、やはり同居する子供のいる世帯が多い。

通常の組合せで加入する者と、健康保険のみに加入する者を比較すると、ブ

ラジルで社会保険に加入していた者は通常の組合せで加入しているケースの方が多いこと、自身の将来に対する満足度では、健康保険にのみ加入しているケースの方が総じて高く見受けられること、などを指摘できる。また、永住資格を有するか永住の意向を示す者に関しては、会社の健康保険にのみ加入する者がほとんどいないことが確認され、彼らは会社の健康保険に加入する際、厚生年金にも加入する傾向にあるのではないかと推測される。

3. 労働条件面からみた社会保険の加入状況

3.1. 使用するデータと仮説

本節では、主に調査対象者の労働条件に関する属性を用いて考察を行うこととする。世帯主の属性を労働条件面に焦点を当ててケース分けし、それぞれの傾向を全サンプル使用時の集計結果と比較した。

健康保険と年金の双方とも、次の変数を労働条件面の属性としてケース分けに用いた。1) 就業形態が正社員である、2) 週に4日以上勤務している、3) 週に30時間以上勤務している、4) 通常時間帯の時給、5) 現在の職場における勤続年数、6) 続けて次の契約に入る際に空き期間がある。

1) 正社員である場合、社会保険への加入は当然のことと考えられる。それゆえ、正社員の社会保険加入率は高い、との仮説を検討する。なお、該当するのは49件である。

2) 週に4日以上勤務するというのは、企業の社会保険への加入条件の一つである「一般の労働者の4分の3以上の時間働いている」ことが満たされる可能性のある状態であり、そのような形で働く外国人の社会保険加入率は高まるのではないかと、という点が、検討すべき仮説である。なお、該当するのは480件である。

3) 週に30時間以上勤務するというのも、企業の社会保険への加入条件の一つである「一般の労働者の4分の3以上の時間働いている」ことが満たされる状態であり、そのような形で働く外国人の社会保険加入率は高まるのではないかと、という点が、検討すべき仮説である。ここでは残業を含まない週あたり

労働時間を用いる。なお、該当するのは 351 件である。

4) 時給に関しては、低いほど手取りが減ることを嫌い社会保険への加入を避ける傾向にある、という仮説を立て、これを検討したい。なお、時給が 1000 円以下の 46 件、1300 円以上の 167 件をそれぞれ対象とする。

5) 現在の職場での勤続年数では、それが短い者と長い者の間で、社会保険への加入状況に差が見られるかを確認したい。仮説は、勤続年数が長い者ほど社会保険への加入が進んでいる、というものである。なお、勤続が 1 年以上の 241 件、5 年以上の 71 件をそれぞれ対象とする。

6) 続けて次の契約に入る際、空き期間を設け、雇用契約の期間が連続して 2 ヶ月を超えないように調整し、社会保険への加入条件を満たさぬよう行動する企業が存在するのではないか、という仮説を立て、これを検討したい。調査票は、この待機期間について、1~3 日程度の間がある、1 週間程度の間がある、10 日から 2 週間程度の間がある、その他、の 4 つの形で尋ねている。その他には、2 週間以上の間があるとの回答や、待機期間はないとの回答が混在するため、これを除く選択肢に印を付けた者、すなわち 1 日~2 週間程度の待機期間があると回答した計 138 件を対象とする。

3.2. 健康保険（表 4）

全サンプルを用いた集計結果は前節と同じであるため、仮説の検討に入りたい。

1) 就業形態が正社員である者の健康保険加入率（55.3%）は、全サンプルの加入率より約 15 ポイント高くなっており、正社員の加入率は高いとする仮説を支持する結果となっている。会社の健康保険に加入する者が過半数であるが、国民健康保険に加入する者が少なくないことも注目に値する。

2) 週に 4 日以上勤務する者の健康保険加入率（37.7%）は、僅かながら全サンプルの加入率を下回っており、仮説は支持されない。これは、調査対象のほとんどの日系人が週 4 日以上勤務していることと関係していると考えられる。また、会社の健康保険と国民健康保険に加入している者の割合がほぼ等しくな

っている。

3) 週に 30 時間以上勤務する者の健康保険加入率 (36.9%) は全サンプルの加入率を下回っており、仮説は支持されない。また、会社の健康保険より国民健康保険に加入しているとの回答が多くなっている。

4) 時給と健康保険への加入の関係では、1000 円以下の者 (56.8%) が 1300 円以上の者 (42.8%) よりも高い加入率を示し、時給の低い者は手取りが減ることを嫌い健康保険への加入を敬遠する、という仮説とは反対の結果が得られた。ただし、特に時給 1000 円以下の者はサンプルが小さいため、解釈には注意が必要である。時給 1300 円以上の者についても、全サンプルの加入率は上回っている。興味深い点として、時給 1000 円以下の者は国民健康保険への加入が多い一方、1300 円以上の者は会社の健康保険に加入している割合が全サンプルの集計値よりも高くなっていることを挙げるができる。

5) 勤続年数と健康保険への加入の関係では、5 年以上の者 (41.2%) が 1 年以上の者 (40.4%) よりも僅かながら高い加入率を示しており、勤続年数が延びるほど健康保険への加入率が高いという仮説を一応は支持するといえる。勤続 5 年以上の者も 1 年以上の者も、全サンプルの加入率を上回っていることから、勤続が 1 年未満の者の健康保険への加入率の低さが示唆される。5 年以上勤続する者の会社の健康保険への加入が、全サンプルの集計値より高くなっている。

6) 次の契約との間に待機期間があると回答した者の健康保険加入率 (43.8%) は全サンプルの加入率よりも高く、また、会社の健康保険への加入についても同様であり、待機期間を課せられる者の加入率は低いという仮説は支持されなかった。待機期間があると回答していない者は、まだ日本での滞在期間が短い可能性が考えられる。

3.3. 年金 (表 5)

全サンプルを用いた集計結果は前節と同じであるため、前項と同様に、早速仮説の検討に入りたい。

1) 正社員の年金保険への加入率（58.7%）は、全サンプルの加入率より著しく高い水準にある。年金の種類に関しても、日本の公的年金に加入する者の割合が全サンプルの集計値より、それぞれ 18 ポイント程度高く、正社員の年金加入率は高いとする仮説を支持する結果となっている。もっとも、正社員といえども国民年金への加入者が多いのは気掛かりな点である。

2) 週 4 日以上勤務する者の年金保険への加入率（21.8%）は、全サンプルの加入率を僅かに下回る水準にあり、仮説は支持されない。国民年金と厚生年金に加入する者の割合はほぼ等しくなっている。

3) 週 30 時間以上勤務する者の年金保険への加入率（18.1%）は、全サンプルの加入率を下回っており、仮説は支持されない。また、厚生年金への加入率が高まる傾向も見られない。

4) 時給と年金への加入の関係では、1000 円以下の者（28.6%）が 1300 円以上の者（24.7%）よりも高い加入率を示し、時給の低い者は手取りが減ることを嫌い年金への加入を敬遠する、という仮説とは反対の結果が得られた。ただし、前項同様、特に時給 1000 円以下の者のサンプルが小さい点に留意する必要がある。また、時給 1300 円以上の者は厚生年金に加入している割合が全サンプルの集計値よりも高くなっている点が特徴的である。

5) 勤続年数と年金への加入の関係では、5 年以上の者（24.6%）が 1 年以上の者（22.5%）よりも僅かながら高い加入率を示しており、勤続年数が延びるほど年金保険への加入率が高いという仮説を一応は支持するといえる。勤続 5 年以上の者も 1 年以上の者も、全サンプルの加入率を若干上回っていることから、勤続が 1 年未満の者の健康保険への加入率の低さが示唆される。1 年以上勤続する者、5 年以上勤続する者の双方とも、全サンプル集計値よりも高い厚生年金への加入率が認められる。

6) 次の契約との間に待機期間があると回答した者の年金加入率（25.6%）は全サンプルの加入率よりも高かったものの、厚生年金への加入に限定すれば、全サンプルの加入率を約 2 ポイント下回っている。待機期間を課せられる者の年金加入率は低いという仮説は、厚生年金に限れば支持されるといえるかもし

れない。

3.4. 健康保険と年金のセット加入（表 6）

ここでは、健康保険と年金のセット加入の状況を、主に労働条件面の属性に着目して把握する。なお、前節での集計と同様に、健康保険と年金のどちらかに対する記述が無いものは欠損データとしたため、サンプルが小さいことに留意が必要である。

労働条件面の属性によるケース分けの集計結果をみると、国民健康保険と国民年金、もしくは会社の健康保険と厚生年金という通常の組合せでの加入を果たしている者は全員が週 4 日以上勤務している。公的な健康保険にのみ加入し、年金に加入していないと回答する者に関しても、やはり全員が週 4 日以上勤務している。

通常の組合せで加入する者と、健康保険のみに加入する者を比較すると、前者は正社員であるケースが約半数に達する一方、後者に正社員であるケースは少ない。また、会社の健康保険と厚生年金という組合せについては、時給 1300 円以上の者が占める割合が高いといえよう。しかし、その他の属性については、明確な差を見出せなかった。

3.5. 雇用保険（表 7）

雇用保険は労働保険の一種であり、健康保険や年金保険といった社会保険と適用条件が異なる部分がある。しかし、ここでは労働条件面からみた社会保険の加入状況と基本的に同じ属性を用いてケース分けを行い、雇用保険への加入状況を把握していきたい。属性の内、週あたりの勤務日数は省き、週あたりの勤務時間を雇用保険の加入条件に合わせ 30 時間以上から 20 時間以上に変更した。

まず全サンプルを用いた集計値だが、加入しているのは 155 件で、有効回答 456 件に占める割合は 34.0%である。

正社員である者の加入率（57.5%）は、全体の傾向よりも顕著に高くなって

いる。

週 20 時間以上勤務する者の加入率（34.4%）は、全体の傾向とほぼ同水準である。ほとんどの調査対象者が 20 時間以上勤務していることと関係していると思われるが、加入していないと回答した者の割合も全体の傾向と一致している。

時給に関しては、1300 円以上の者の加入率（40.8%）が 1000 円以下の者（37.1%）を上回っており、両者とも全体の傾向より高い水準にある。ただし、未加入率も時給 1300 円以上の者が 1000 円以下の者を上回っているため、解釈が困難である。

勤続年数については、5 年以上の者の加入率（50.0%）が 1 年以上の者（42.5%）を上回る。両者とも、全体の傾向より高水準の加入率となっていることから、1 年未満の者の雇用保険加入率は低いことが読み取れる。

次の契約に入るまでの間に待機期間がある者の加入率（45.2%）も、全サンプルの値を上回っていることから、待機期間が雇用保険の加入を阻害する役割を果たすとはいえなかった。

4. 結語－政策的含意－

本稿で扱った個票データは特定地域の住民を対象としたものであるため、その解釈がどの程度の汎用性を有するかについては常に留意しなければならないが、その集計結果が示す外国人労働者の社会保険適用上の論点は以下のようにまとめられる。

- ① 同居する子供がいる者や永住意向を持つ者の社会保険加入率は相対的に高い。
- ② 単身世帯は健康保険への加入率が全体の傾向より低いが、年金加入率に関しては同じことはいえない。
- ③ 正社員の社会保険・雇用保険への加入率は相対的に高いものの、国民健康保険や国民年金への加入者も少なくない。
- ④ 時給 1300 円以上の者や現在の職場に 1 年以上勤続する者は厚生年金に加入

しているケースが多い。

- ⑤ 契約と契約の間の待機期間は厚生年金への加入を妨げる役割を果たしている可能性が示唆されるが、それ以外の社会保険及び雇用保険への影響は見受けられない。
- ⑥ 健康保険と年金のセット加入を果たしているとの回答は少数派であり、そのほとんどが、同居する子供がいて、通算滞在年数が5年以上の者である。
- ⑦ ブラジルで年金に加入していた者は継続加入していることが少なくない。

このように、子供のいる世帯や、日本での通算滞在年数や勤続年数が長い世帯の社会保険加入率が高い傾向にあるのは好ましいことだが、これらはあくまで相対的に高いだけであり、絶対水準の引上げが喫緊の課題であることに変わりはない。同居する子供がいる世帯でも、世帯主の健康保険への加入率が5割に満たないというのは、俄かには信じがたい事態といえる。永住権を有する者の加入率に関しても同様のことがいえる。

ブラジルの年金に継続加入している日系人の存在には、従来あまり関心が向けられなかったが、今回の調査結果は彼らが無視できうるほどの少数派ではないことを示した。社会保障協定を巡る取組みの進展次第では、今後の日系ブラジル人労働者の社会保険に係る問題の焦点に変化が生じる可能性もあるだろう。

なお、会社の健康保険や厚生年金が適用されるはずの労働者が国民健康保険や国民年金に加入している可能性については⁸、雇用契約期間の長さに関する設問への回答が少なかったことから厳密さを欠く議論になるが、少なくとも労働時間や労働日数は加入の障害になっていないことを今回の調査結果は示している。一方、待機期間は厚生年金への加入の障害となっている可能性が示唆され、この点についてはさらなる分析が必要である。とりわけ「セット加入」の問題では、通常の組合せでない加入がどのような形で実現したのかを、実地調査か

⁸ 厚生労働省の通達により、市町村は以前と比べ、日系人労働者の国民健康保険への加入手続きには慎重な姿勢を取っていると思われる。この経緯の一例については丹野（2000：p.25.脚注7）を参照のこと。

ら明らかにする必要があるだろう。「セット加入」の齟齬を放置しないよう、社会保険事務所は制度の維持を図る上でも、市町村と協力し、対応すべきである。また、外国人労働者自身が年金に加入していることを認識していないケースについては、そのような事態を解消するような努力が、企業と行政の双方に求められる。

今後、外国人労働者の「無保険」状態を解消させる手段として、人道的な立場から、企業の社会保険加入条件を満たしうる者にまで国民健康保険や国民年金への加入を認めることは、将来に禍根を残す恐れがある。今回の調査の集計結果からいえることは、労働日数と労働時間が正規雇用される労働者の4分の3以上となる者については全て、企業が社会保険に加入させる必要があるように制度を整えることが、外国人労働者の社会保険加入率を引き上げる最も効果的な方策となる、ということである。さらに、近年の永住資格取得者の急増を鑑みれば、その審査の段階で社会保険への加入歴を考慮することも、無保険者を減少させることに繋がると思われる。

社会保険への加入は義務であることを粘り強く外国人労働者に伝える必要があることは論を待たないが、そのためには外国人の所在を把握するシステムの構築が前提となる。現状では、企業に対して外国人労働者の社会保険加入を徹底させるよう指導していくことが最善の策であろう。

主要参考文献

- ・ 井口泰（2001）『外国人労働者新時代』ちくま新書
- ・ 倉田聡（2004）「非正規就業の増加と社会保障法の課題」『季刊・社会保障研究』Vol.40 No.2、2004年秋号、国立社会保障・人口問題研究所、pp.127-138.
- ・ 佐野嘉秀（2004）「製造分野における請負労働者の労働条件とキャリアー社会政策の視点から」『季刊・社会保障研究』Vol.40 No.2、2004年秋号、国立社会保障・人口問題研究所、pp.139-152.
- ・ 丹野清人（1999）「在日ブラジル人の労働市場－業務請負業と日系ブラジル人労働者」『大原社会問題研究所雑誌』No.487、1999年6月、法政大学・大原社会問題研究所、pp.21-40.
- ・ ــــــــ－（2000）「日系人労働市場のミクロ分析－日系人雇用と地域コミュニティ」『大原社会問題研究所雑誌』No.499、2000年6月、法政大学・大原社会問題研究所、pp.18-36.
- ・ 千年よしみ（2005）「ブラジル人児童が育つ環境－2004年磐田市外国人実態調査から－」『人口減少に対応した国際人口移動政策と社会保障政策の連携に関する国際比較研究（平成16年度 総括研究報告書：主任研究者 千年よしみ）』厚生労働科学研究費補助金 政策科学推進研究事業（H16-政策-022）、第4部第3章、pp.121-141.

表 1. 生活面の属性からみた健康保険の加入状況

		合計	国民 健康保険	会社の 健康保険	旅行傷害 保険	VIVA VIDA	分からない	その他
全サンプル 608	加入	183	63	52	10	17	28	17
	有効%	38.0	35.2	29.1	5.6	9.5	15.6	9.5
	全体%	30.1	10.4	8.6	1.6	2.8	4.6	2.8
	有効数	482	179	179	179	179	179	179
単身世帯 54	加入	14	4	5	1	0	3	1
	有効%	30.4	28.6	35.7	7.1	0.0	21.4	7.1
	全体%	25.9	7.4	9.3	1.9	0.0	5.6	1.9
	有効数	46	14	14	14	14	14	14
同居子供有 298	加入	117	46	31	7	12	15	7
	有効%	42.7	40.7	27.4	6.2	10.6	13.3	6.2
	全体%	39.3	15.4	10.4	2.3	4.0	5.0	2.3
	有効数	274	113	113	113	113	113	113
永住資格有 95	加入	45	17	12	5	5	2	6
	有効%	50.0	39.5	27.9	11.6	11.6	4.7	14.0
	全体%	47.4	17.9	12.6	5.3	5.3	2.1	6.3
	有効数	90	43	43	43	43	43	43
永住予定有 63	加入	35	15	15	3	1	1	2
	有効%	56.5	44.1	44.1	8.8	2.9	2.9	5.9
	全体%	55.6	23.8	23.8	4.8	1.6	1.6	3.2
	有効数	62	34	34	34	34	34	34
通算滞在年数								
2年未満 76	加入	20	5	6	0	4	4	2
	有効%	30.3	25.0	30.0	0.0	20.0	20.0	10.0
	全体%	26.3	6.6	7.9	0.0	5.3	5.3	2.6
	有効数	66	20	20	20	20	20	20
5年以上 314	加入	116	45	33	7	10	14	11
	有効%	41.1	39.1	28.7	6.1	8.7	12.2	9.6
	全体%	36.9	14.3	10.5	2.2	3.2	4.5	3.5
	有効数	282	115	115	115	115	115	115
10年以上 174	加入	75	32	24	4	6	5	7
	有効%	46.3	42.7	32.0	5.3	8.0	6.7	9.3
	全体%	43.1	18.4	13.8	2.3	3.4	2.9	4.0
	有効数	162	75	75	75	75	75	75
ブラジルで 健保加入 55	加入	17	5	3	1	1	6	1
	有効%	34.7	29.4	17.6	5.9	5.9	35.3	5.9
	全体%	30.9	9.1	5.5	1.8	1.8	10.9	1.8
	有効数	49	17	17	17	17	17	17
医療環境に満足 143	加入	60	20	22	6	2	8	6
	有効%	44.8	33.9	37.3	10.2	3.4	13.6	10.2
	全体%	42.0	14.0	15.4	4.2	1.4	5.6	4.2
	有効数	134	59	59	59	59	59	59
病気:医者へ 172	加入	72	27	25	5	4	7	5
	有効%	46.8	38.0	35.2	7.0	5.6	9.9	7.0
	全体%	41.9	15.7	14.5	2.9	2.3	4.1	2.9
	有効数	154	71	71	71	71	71	71
病気:我慢 139	加入	51	21	12	2	6	8	2
	有効%	38.9	42.9	24.5	4.1	12.2	16.3	4.1
	全体%	36.7	15.1	8.6	1.4	4.3	5.8	1.4
	有効数	131	49	49	49	49	49	49

注) 各属性の下に記された数字は、それぞれに該当する世帯数を表す。各セルについては、上から、1.加入と回答した者の数、2.加入と回答した者の数が有効回答数に占める割合、3.加入と回答した者の数が該当世帯数に占める割合、4.有効回答数、を記した。なお、健康保険に加入していると答えた者全員が、加入する健康保険の種類を回答しているとは限らない。

表 2. 生活面の属性からみた年金保険の加入状況

		合計	国民年金	厚生年金	民間の 年金保険	ブラジルの 年金保険	分からない	その他
全サンプル 608	加入	101	20	20	2	31	32	3
	有効%	22.0	20.4	20.4	2.0	31.6	32.7	3.1
	全体%	16.6	3.3	3.3	0.3	5.1	5.3	0.5
	有効数	459	98	98	98	98	98	98
単身世帯 54	加入	10	2	0	0	3	5	1
	有効%	23.8	22.2	0.0	0.0	33.3	55.6	11.1
	全体%	18.5	3.7	0.0	0.0	5.6	9.3	1.9
	有効数	42	9	9	9	9	9	9
同居子供有 298	加入	68	16	18	1	17	19	1
	有効%	25.7	24.2	27.3	1.5	25.8	28.8	1.5
	全体%	22.8	5.4	6.0	0.3	5.7	6.4	0.3
	有効数	265	66	66	66	66	66	66
永住資格有 95	加入	28	7	9	2	8	4	0
	有効%	33.3	25.9	33.3	7.4	29.6	14.8	0.0
	全体%	29.5	7.4	9.5	2.1	8.4	4.2	0.0
	有効数	84	27	27	27	27	27	27
永住予定有 63	加入	27	7	10	0	3	5	2
	有効%	44.3	26.9	38.5	0.0	11.5	19.2	7.7
	全体%	42.9	11.1	15.9	0.0	4.8	7.9	3.2
	有効数	61	26	26	26	26	26	26
通算滞在年数								
2年未満 76	加入	11	1	0	0	4	7	0
	有効%	17.2	9.1	0.0	0.0	36.4	63.6	0.0
	全体%	14.5	1.3	0.0	0.0	5.3	9.2	0.0
	有効数	64	11	11	11	11	11	11
5年以上 314	加入	69	19	17	2	18	17	3
	有効%	25.4	28.4	25.4	2.3	26.9	25.4	4.5
	全体%	22.0	6.1	5.4	0.6	5.7	5.4	1.0
	有効数	272	67	67	67	67	67	67
10年以上 174	加入	47	14	15	2	15	5	2
	有効%	30.7	31.1	33.3	4.4	33.3	11.1	4.4
	全体%	27.0	8.0	8.6	1.1	8.6	2.9	1.1
	有効数	153	45	45	45	45	45	45
ブラジルで 年金加入 98	加入	32	7	3	0	27	4	0
	有効%	34.4	21.9	9.4	0.0	84.4	12.5	0.0
	全体%	32.7	7.1	3.1	0.0	27.6	4.1	0.0
	有効数	93	32	32	32	32	32	32
将来に満足 205	加入	44	8	7	1	16	13	0
	有効%	23.5	19.0	16.7	2.4	38.1	31.0	0.0
	全体%	21.5	3.9	3.4	0.5	7.8	6.3	0.0
	有効数	187	42	42	42	42	42	42

注) 各属性の下に記された数字は、それぞれに該当する世帯数を表す。各セルについては、上から、1.加入と回答した者の数、2.加入と回答した者の数が有効回答数に占める割合、3.加入と回答した者の数が該当世帯数に占める割合、4.有効回答数、を記した。なお、年金保険に加入していると答えた者全員が、加入する年金保険の種類を回答しているとは限らない。

表 3. 生活面の属性からみたセット加入の状況

健保 年金	通常の組合せ		公的健康保険のみ	
	国民健康保険 国民年金	会社の健康保険 厚生年金	国民健康保険 未加入	会社の健康保険 未加入
全サンプル	12	13	22	16
単身世帯	1 <i>12</i>	0 <i>11</i>	0 <i>20</i>	0 <i>14</i>
同居子供有	10 <i>12</i>	12 <i>12</i>	15 <i>16</i>	7 <i>8</i>
永住資格有	4 <i>11</i>	6 <i>13</i>	7 <i>21</i>	0 <i>12</i>
永住予定有	4 <i>12</i>	7 <i>13</i>	5 <i>19</i>	1 <i>16</i>
通算滞在年数				
2年未満	0 <i>12</i>	0 <i>13</i>	2 <i>22</i>	4 <i>12</i>
5年以上	12 <i>12</i>	12 <i>13</i>	16 <i>22</i>	7 <i>12</i>
10年以上	9 <i>12</i>	11 <i>13</i>	12 <i>22</i>	4 <i>12</i>
ブラジルで 健保加入	3 <i>11</i>	0 <i>13</i>	0 <i>22</i>	1 <i>16</i>
ブラジルで 年金加入	6 <i>12</i>	2 <i>12</i>	1 <i>21</i>	1 <i>16</i>
医療環境に 満足	7 <i>12</i>	5 <i>13</i>	8 <i>21</i>	6 <i>15</i>
将来に満足	4 <i>12</i>	4 <i>13</i>	11 <i>21</i>	7 <i>14</i>
病気:医者へ	6 <i>12</i>	8 <i>13</i>	8 <i>21</i>	6 <i>16</i>
病気:我慢	5 <i>12</i>	3 <i>13</i>	10 <i>21</i>	3 <i>16</i>

注) 通常の組合せで、あるいは健康保険のみという形で、日本の公的社会保障に加入していると回答した者の件数を記した。イタリックの数字は、全サンプル集計値から各属性についての設問に無回答であったサンプルを除いた有効件数である。ここでは属性が、全サンプル集計の内訳的な位置付けとなっている。

表 4. 労働条件面の属性からみた健康保険の加入状況

		合計	国民 健康保険	会社の 健康保険	旅行傷害 保険	VIVA VIDA	分からない	その他
全サンプル (再掲) 608	加入	183	63	52	10	17	28	17
	有効%	38.0	35.2	29.1	5.6	9.5	15.6	9.5
	全体%	30.1	10.4	8.6	1.6	2.8	4.6	2.8
	有効数	482	179	179	179	179	179	179
正社員 49	加入	26	10	14	2	1	1	0
	有効%	55.3	40.0	56.0	8.0	4.0	4.0	0.0
	全体%	53.1	20.4	28.6	4.1	2.0	2.0	0.0
	有効数	47	25	25	25	25	25	25
週4日以上 480	加入	161	50	49	10	17	25	15
	有効%	37.7	31.6	31.0	6.3	10.8	15.8	9.5
	全体%	33.5	10.4	10.2	2.1	3.5	5.2	3.1
	有効数	427	158	158	158	158	158	158
週30時間以上 351	加入	121	37	33	7	12	20	12
	有効%	36.9	31.6	28.2	6.0	10.3	17.1	10.3
	全体%	34.5	10.5	9.4	2.0	3.4	5.7	3.4
	有効数	328	117	117	117	117	117	117
時給								
1000円以下 46	加入	21	10	5	0	0	2	3
	有効%	56.8	50.0	25.0	0.0	0.0	10.0	15.0
	全体%	45.7	21.7	10.9	0.0	0.0	4.3	6.5
	有効数	37	20	20	20	20	20	20
1300円以上 167	加入	68	19	24	3	7	9	7
	有効%	42.8	28.4	35.8	4.5	10.4	13.4	10.4
	全体%	40.7	11.4	14.4	1.8	4.2	5.4	4.2
	有効数	159	67	67	67	67	67	67
勤続								
1年以上 241	加入	93	25	27	7	12	14	9
	有効%	40.4	27.5	29.7	7.7	13.2	15.4	9.9
	全体%	38.6	10.4	11.2	2.9	5.0	5.8	3.7
	有効数	230	91	91	91	91	91	91
5年以上 71	加入	28	8	11	3	1	3	3
	有効%	41.2	28.6	39.3	10.7	3.6	10.7	10.7
	全体%	58.8	11.3	15.5	4.2	1.4	4.2	4.2
	有効数	68	28	28	28	28	28	28
待機期間 138	加入	57	18	18	4	6	6	7
	有効%	43.8	31.6	31.6	7.0	10.5	10.5	12.3
	全体%	41.3	13.0	13.0	2.9	4.3	4.3	5.1
	有効数	130	57	57	57	57	57	57

注) 各属性の下に記された数字は、それぞれに該当する世帯数を表す。各セルについては、上から、1.加入と回答した者の数、2.加入と回答した者の数が有効回答数に占める割合、3.加入と回答した者の数が該当世帯数に占める割合、4.有効回答数、を記した。なお、健康保険に加入していると答えた者全員が、加入する健康保険の種類を回答しているとは限らない。